

ICT を活用し子ども動きのこつへの気づきを促す跳び箱授業

近年、GIGA スクール構想により 1 人 1 台タブレットが支給され、日常的に小学校児童の授業に活用されている。この数年の附属小学校の体育の研究授業、研究協力してもらい日々の体育授業を観覧させていただく際にも、タブレットを活用し授業に役立てる活動が定着している様子が見えている。体育授業におけるタブレット等の ICT の使用方法については、①運動の見本を閲覧する、②自分やグループの動きを確認する、③関連の情報（ルール、歴史等）を調べる、の 3 点が考えられる。体育授業での ICT の活用の場合、ICT を用いた活動に時間がかかりすぎると、十分な運動学習時間の確保が難しくなるため、用いるルールを設けたり、学習者が取り扱いに慣れた上で活用する等の配慮が必要である。これまでの公開研、校内研での授業公開の様子を見てみると、短い時間で操作ができ、子ども達は運動を十分練習する時間を確保しながら、ICT を活用できているように思う。今回の佐々木駿斗先生の 3 年生の跳び箱運動の授業では、ICT の活用を取り入れながらも子どもの自主性を引き出す工夫のある授業を実施していたように思う。以下詳細について述べる。

まず、佐々木先生独特の授業のやわらかい口調と雰囲気は子どもの自然で素朴な意見・つぶやきが見られている授業だった。小学生の独特の考え方や捉え方は、教師の指導性の発揮の仕方によってはほとんできると抑えられてしまう傾向があるが、本授業では 3 年生らしい発想で子ども達が自然体で学習をしている姿に好感がもてた。

今回の授業では、技の出来栄を子ども自身が捉え、出来栄を評価しながら学習が進む活動が主眼となっていた。各々の子どものイメージする到達したい技の在り方を「金メダル」として設定し、仲間と共に考えや技のこつである「学びのものさし」を更新していくことを単元の設定としていた。まず、ICT の使用によって、身近な先輩である 6 年生の動きの見本を用意し（体育主任の山田先生とのコラボレーションと考えられる）、動きのイメージを持ちながら活動に取り組んだ所がよかった。タブレットで動画を撮影し、タイムシフトカメラを利用し、意見交換・アドバイスのし合い等協働学習が上手くいっていた。その時に共有したこつをコラボノートを活用し、とび方のコツシートに学習者のこつを書いたものを全員で共有できるようにしていた。これら活動が上手くいっていたのも、グループの中で役割分担を設け、タブレットを撮影する係、コツをみつける係と上手く分担し、活動を成功裏に導いていた。中学年である 3 年生でどれだけ使いこなせるか、という点が体育授業の ICT 使用の面では気がかりであったが、本公開授業では十分に使いこなせ、短い時間で運動学習をそこなうことなく実施できていたように思う。とび方コツシートの内容はコツ、ポイントを押さえたものが出ていたように思う。また、授業の総括の際にグループの他の人の助言によってより良くなったり、出来るようになった人が出て、ICT を用いて協働でコツをみつけ効果的なアドバイスを行っている効果がみられたように思う。

本研究授業の課題としては、運動学習の認知面からのアプローチだけでなく、教師のほう助により跳び箱を跳ばせて運動感覚でできるようにする方法も取り入れることがあげられる。今後期待したい。